

二足歩行「通天閣ロボット」が、大阪の観光大使として活躍中!!

通天閣観光株式会社と日本橋まちづくり振興株式会社がコラボレーションし、大阪浪速のシンボル通天閣のリアル・ロボット化を計画した。3月21日、「通天閣ロボット」が大阪の観光大使となるべく20万人以上の来場者で賑わう第6回日本橋ストリートフェスタ2010で華々しくデビューした。さんがつ うらぶ
三月 鬼

通天閣ロボットが立ち上がる

前日まで激しい風雨が吹き荒れていたのが嘘のように晴れ上がった休日。「でんでんタウン」と呼ばれ日本有数の電気街として親しまれている日本橋で、第6回ストリートフェスタ2010が開催された。今年のテーマは『変身』。日本橋を代表する3つのコンテンツ「電気」「ポップカルチャー」「ロボット」が変身をテーマにイベントを盛り上げた。

中でも目玉だったのが、でんでんタウンより約300m南に高くそそり立つ通天閣をかたどった二足歩行ロボット「通天閣ロボット」のお披露目だった。

通天閣は、1956年の完成以来、足もとに広がる新世界界隈とそれに続く日本橋商店街をどっしりと見守ってきた。

この通天閣をキャラクター化した「通天閣ロボット」を、通天閣観光株式会社と日本橋まちづくり振興株式会社を中心となり企画、地域7社が協力し1,000万円で製作したのだ。

オープニングイベントでは、通天閣ロボットがイベント開会宣言をし、平松邦夫大阪市長から、大阪市特別住民票が交付された。その後、イベント会場の堺筋をパ



身長170cm、体重30kgの大型二足歩行ロボット。26自由度で、得意技は「ツッコミ」。

レード。コスプレイヤーがひしめき合う歩行者天国の中でも、通天閣ロボットは注目の的で、両手や首・頭を動かしたり、展望台にあたる目を光らせて愛嬌を振りまいた。おっさん声で「なんでやねん!」とツッコミをいれる通天閣ロボットに、十重二十重の見物客から「かわいい〜」と声があがっていた。

この通天閣ロボットは、実物通天閣の1/60サイズで身長170cm。ボディを軽くするために、軽金属と複合材のフレームを用いたラス構造で製作されている。それでも外装だけで10kg近くあり、重量は合計30kgになった。サーボは、トルクが115kgf・cmと327kgf・cmのものを使い分けている。全身26自由度(腕:6軸×2、足:5軸×2、首:3軸、頭(展望台部分)1軸)で、安定歩行するように足は太く短い胴長短足のスタイルだ。ボディに搭載したスピーカーから、発話する。コントロール方式は、ラジコン遠隔制御。シーケンスで、あらかじめ作成したシナリオに沿った自律動作も可能だ。バッテリーはリチウムフェライトで、デモンストレーション

では1時間稼動する。しかし歩き回ると15分しか持たないようだ。

本来無機質なタワーが、頭にあたる展望台部分を上下に動かし、目のLEDを光らせ、タワーの途中から生えている腕を動かすと生き生きとしたキャラクターとして存在感を持った。

通天閣ロボット化計画

通天閣ロボットプロジェクトは、キャラクターデザインを担当した中村拓哉氏(グラフィックパワー株式会社)が、通天閣を運営する通天閣観光株式会社に3DCGを持ち込んでスタートした。3DCGを見た西上雅章氏(通天閣観光株式会社 代表取締役)は、リアル・ロボットにした方がおもしろいと、澤田沢治氏(日本橋まちづくり振興株式会社 代表取締役社長)に提案した。

日本橋のでんでんタウンは、高度経済成長期以降に電気街として発展、最盛期には約200店の電気系販売店が軒を連ねた。近年は、サブカルチャー系の専門店舗進出が目立つが、今でも、ロボット製作に必要な設計から、電子材料・加工・造形に



通天閣ロボットには、市長より特別住民票を交付された。



第6回日本橋ストリートフェスタ2010で堂々のデビュー。来場者の人気を集めた。



頭部の展望台が上下に可動し、目がLEDで光る。首軸と合わせて多彩な動きで、感情を表現する。



足は短い。特撮スーツの外装を塗装。きれいなグラデーション塗装やスジ彫りへのスミ入れて、立体感・重量感を出している。